

<p style="text-align: center;">アジア・ビジネスワークショップ II Asia Business Workshop II</p>	<p>(教員名) 李 捷生、有賀 敏之、金子 勝規</p>	
<p>アジア・ビジネス研究分野 中核科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>必修</p>
	<p>3 単位</p>	<p>2018 年度・後期</p>
<p>I 科目の主題 ケース・スタディで学ぶアジア・ビジネスの最前線</p>		
<p>II 授業の到達目標 日本およびアジアにおけるビジネスや国際協力の諸問題について、それぞれの現場の第一線で活躍されている方々をゲストスピーカーに招き、日本とアジアの企業が直面してきた問題とそれに対する対応策や企業のアジア経営戦略、企業のアジア経済環境、アジアにおける国際協力等について学ぶ。 M2の院生は、M1 後期の課題研究を踏まえて、論文作成を進めながら、このワークショップを各自の仮説の検証やリサーチの不完全なところを補強する機会にして欲しい。</p>		
<p>III 授業内容・授業計画 1. 日本とアジアの企業のなかからアジアへの進出戦略、マーケティング戦略、生産システム、人事・労務管理、財務戦略、研究開発戦略、経営の現地化、経営環境などのテーマに即したゲストスピーカーを、また第一線でアジアの国際協力に携わっているゲストスピーカーをお招きして、講義、討論を通じてケース・スタディを行なう。 2. 現場で直接活躍されている方だけでなく、それぞれのテーマに関する研究をされている第一線の研究者を招き、最新の理論や分析手法を学ぶ。 3. M2院生は、リサーチペーパーや修士論文の完成を目指して、ワークショップを有効に活用することが必要である。また院生は、ゲストスピーカーをリクエストすることもできる。教員は、集団的な指導によって、ワークショップが各自のリサーチ・ペーパーや修士論文の完成に資するよう留意する。 M1院生は、論文の課題設定や問題意識を深化させるためにこのワークショップを有効に活用して欲しい。</p>		
<p>IV 事前・事後の学習内容 各教員の指示に従う。</p>		
<p>V 評価方法 ワークショップへの参加と討議内容、記録作成への参加を基本とする。</p>		
<p>VI 受講生へのコメント ワークショップは、院生の主体的で積極的な参加が不可欠である。事前に配布される講義資料を予習し、予め質問事項を用意して講義に臨むことで、収穫が倍増することを知って欲しい。</p>		
<p>VII 教材 必要な参考文献等は、ワークショップのテーマに応じてその都度指示する。</p>		